

SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain SMC 豊島 健治

私説・日本銀行

(「円」の番人に期待するもの)

東京都中央区日本橋本石町1丁目1番地……城山三郎さんの「小説・日本銀行」は確かそんな書出しで始まっていた。戦後のインフレと戦う日銀マンを描いた(と記憶する)この小説を読んだのは大分昔の話であるが、その内容は銀行員だった私にも「へえ、こんな世界もあるんだ」といった程度にしか理解できなかった。まして日本銀行がどのように生まれ、どのような機能を果たしているかなどには想いも及ばなかった。

それから20年経った昨今、何故か日本銀行が気になるようになった。「円の番人」として、その行動がとても気になるのである。

その理由の一つは、「円の番人」としての役割を本当に全うできるかどうか時として不安になるからである。1984年刊行の日本銀行百年史で、昭和恐慌後に進められた日銀の政府迎合策を、「本行(日本銀行)が国債引受けに同意したことは、中央銀行機能を奪い去るプロセスの第一歩になった意味でまことに遺憾。百年の歴史における最大の失敗である」と総括した。その総括を信じたいと思うが、執拗に繰り返される日銀への金融緩和要求の中で、日銀の国債引受けが公然と主張され始めていることに一抹の危惧を覚えるのは私だけではあるまい。

日銀は既に、市場から国債を買い取るという方法で間接的な国債引受けを行っている。この国債買いオペ(市場操作)がどのような意図の下に行われているかは分からないが、この買いオペが長期金利の上昇を抑え、ひいては国債価格の下落を抑制しているのは事実であろう。

日本の中央銀行(セントラル・バンク)日本銀行とは一体どんな銀行で、どんな役割を持っているのだろうか。皆さんはご存知だろうか。

日本銀行は日銀法という法律に基づいて設立された銀行である。財務大臣が過半(55%)の株式を握ってはいるが、政府とは一線を画しその独立性が保証されている特別な銀行である。日本銀行は銀行の銀行(Bank Of Bank)として、「通貨価値の安定」と「物価の安定」を計るという重要な使命を担っており、それを達成するために強力な権限・機能を付与されている……日銀を手短

かに云えばそんな風になると思うが、これだけでは日銀が何なのかは良く分らない。

三つの機能から私なりの日銀を書いてみる。

第一の機能は、日本銀行券と云う名の通貨を発行する銀行であることだ。私達が日々様々な物やサービスを購入する時に使う通貨(紙幣及び硬貨)は、財務省造幣局で作っているが発行しているのは日本銀行である。

この通貨は、日銀から一般の市中銀行に向けて発行され、市中銀行を通じて個人や法人に流れる。そして個人や法人で使われた通貨は預金や売上という形で再び市中銀行に預けられ、やがて市中銀行から日銀に帰ってゆく。このように現実の通貨は、日銀 市中銀行 法個人 市中銀行 日銀と巡っている。

第二は、資金の流通量を調節することによって金融政策を実現する機能を持つ。

インフレを予防したり鎮めたりしたい時、短期金融市場からお金を吸い上げてコールレートを意図的に引上げる。この操作により銀行貸出金利を上げる。上がれば資金需要が減り企業の投資行動が抑制される。結果的に、金融面からインフレを抑える役割を果たす。これによって「物価の安定」を実現するのである。

現在のゼロ金利政策は、お金をたっぴりと市場に供給することにより短期金融市場の金利を限りなくゼロに近づける金融政策を云う。現実には、日銀にある各銀行の当座預金には無利息の預金が5兆円も溢れている。

第三は、日銀のBSを健全に保つことによる通貨信用維持機能だ。通貨が円滑に流通するのは、1万円券は1万円の価値があると誰もが信じる無限連鎖が働いているからである。それが機能しなくなったら大変だ。円が暴落し、金利が暴騰する。世界の歴史を改めて振り返るまでもなく、南米アルゼンチンが今この問題で苦しんでいる。

ケインズは「社会の存続基盤を転覆する上で、通貨を墮落させること以上に巧妙で確実な方法はない」と恐るべきことを述べているが、いつの時代でも、どんな国でも、通貨価値の維持は最も重要な問題である。その墮落への魅惑的な誘いが「正論」を装って繰り返し湧き上がる今、日銀の使命は増々重くなっているように思う。